

労働者協同組合法
成立記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

3/15 (土) ①10:30~ ②14:00~
和光市民文化センター サンアゼリア 小ホール



中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは!

医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り◎室井 滋 朗読◎塚本晋也

写真・映像提供◎ベシワール会/PMG

企画・提供◎日本労働者協同組合(ワーカーズユニオン)連合会センター事業団

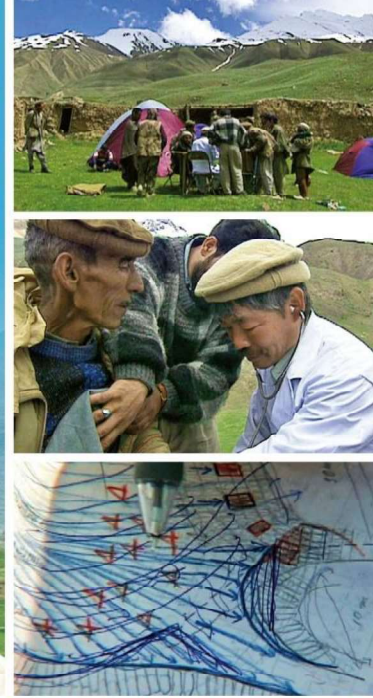
一般社団法人 日本社会連帯機構

製作◎日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分



医師中村哲の
仕事・働く
ということ

アフガニスタンとパキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。



1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は「現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと」である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒労である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。
親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。
中村医師は言う「これは人間の仕事である」



日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)はその産声を上げた時から“失業・貧乏・戦争なくせ”をスローガンとして活動してきました。発足当初から雇う雇われるという関係ではなく、働く一人ひとりが出資して経営にも参加し、福祉や子育て、公共サービスといった社会に役立つ仕事に取組み、2022年10月に法施行される新しい働き方として注目されています。

その日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)が中村医師の生き方、働き方に強く共鳴し、21年の歳月をかけて中村医師を記録してきた日本電波ニュース社に依頼し「働くこと」と「仕事観」に焦点を当てて作られたのが本作品です。

ウクライナ、ミャンマー、シリア…世界は不安に覆われ、無辜の民の命が理不尽に奪われ続けている今だからこそ、この映画を全国に届けることを私たち(ワーカーズコープ)は願っています。

3月15日(土) 和光市民文化センター サンアゼリア 小ホール

※駐車場は限りがございますので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください

後援:和光市・和光市教育委員会 「和光市駅」南口から徒歩 13 分

各回先着220名様(事前予約制)



共催:(一社)日本社会連帯機構



申込 QR コード

① 10:30～ アフタートーク:パシヤワール会小川 石橋忠明さん

② 14:00～ アフタートーク:ワーカーズコープ和光市内事業所 組合員

参加費:一般 1,000 円(障がい者・高校生以下無料)

*****QR コード読取、メール・お電話もしくは下記にご記入し FAX(048-462-1152)にてお申し込みください*****

お名前:	(一般・その他)	観覧希望: <input type="checkbox"/> 10:30～ <input type="checkbox"/> 14:00
同行者:	一般 名・その他 名	Tel:

☎048-423-3990(受付:平日 10:00～17:00)

mail: wako-satsuki@roukyou.gr.jp

お問合せ/主催:労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団
和光さつき地域福祉事業所